

第31回日本臨床微生物学会総会・学術集会
教育セミナー13

座長

国際医療福祉大学
成田保健医療学部 医学検査学科

長沢 光章 先生

演者

公益財団法人結核予防会 複十字病院
呼吸器センター/臨床医学研究科

森本 耕三 先生

演題名

増え続ける
肺NTM症の最新の動向
—肺MABC症を中心に—

日時

2020年2月1日(土) 12:15~13:15

場所

第4会場 ホテル日航金沢 孔雀の間B
〒920-0853 石川県金沢市本町2-15-1



ランチョンセミナーは整理券制となります。

ランチョンセミナー整理券配布場所:
石川県立音楽堂1F エントランス

配布日時: 2月1日(土) 7:30-11:00

セミナー開始後、5分を過ぎますと整理券は無効となります。

演題名

増え続ける 肺NTM症の最新の動向 —肺MABC症を中心に—

森本 耕三 先生

公益財団法人結核予防会 複十字病院 呼吸器センター/ 臨床医学研究科

2019年8月現在、いわゆる抗酸菌群 (Genus *Mycobacterium*) には14亜種を含む199種が登録されているが、これは約3年で20種以上も増加していることになる。一方で抗酸菌属がゲノムおよびコア蛋白質の類似性に基づいて5つの新属に分類された。これに対して、多くの臨床医、細菌学者が異議を表明しており、今後の動向を注視していく必要がある。

迅速発育菌の中で臨床上最も問題となるのが *M. abscessus* complex (MABC) 菌である。同菌は、現在 *M. abscessus* subsp. *abscessus*、*M. abscessus* subsp. *massiliense* および *M. abscessus* subsp. *boletii* の3亜種に分けられている。検査センターの抗酸菌データ解析により、肺MABC症は *M. kansasii* に迫る勢いで増えていることが明らかとなり、更に同症は九州沖縄地方で有病率が高いことが示された。

MABCの亜種同定は質量分析では不可能である。*M. abscessus* および *M. boletii* はマクロライド暴露により耐性誘導遺伝子 (*erm* gene) が活性化し、マクロライドのリボゾーム結合部位が修飾されることにより治療早期に無効となる。一方、*M. massiliense* は *erm* 遺伝子に欠失があり活性化しないためにマクロライド感受性となる。また、*M. abscessus* でも点変異が起こった C28 sequevars (T28C) は *M. massiliense* と同様に *erm* gene が活性化しないために感受性となる。実臨床では亜種分類およびシークエンスによる sequevars の確認はできないが、少なくとも *erm* gene 活性が確認できる CLSI 推奨の迅速発育菌用の感受性試験を行う。注意が必要なのは、*M. abscessus* および *M. massiliense* どちらにも獲得耐性があるという点である。機序は MAC と同様に 23SrRNA (*rrl*) の変異である。C28 sequevars または *M. massiliense* の症例は幸いにも治療反応性が期待できるが、単剤治療などで耐性化させてしまった場合には、MAC の CAM 耐性例と同様にキードラッグを無くしてしまうことになる。